

内容項目名	節度・節制（内容項目A－（2））		
資料名	「手のひらの小さな世界」（出典 「千葉県教育委員会」）		
学校名	市川市立東国分中学校	指導者	村田 伸子

1 学習指導案

中学校 全校 道徳学習指導案

平成29年12月1日（金）5校時

（1）主題名

情報モラル意識の高揚

（2）ねらい

話し合い活動や異学年間の意見交流によって、SNSの使用などで起こり得るトラブルや相手への影響について気づき、節度ある行動の必要性を学び、安全で調和のとれた実践意欲と態度を養う。

（3）主題設定の理由

本資料は、内容項目A－（2）の「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事」をねらいとしている。

近年、情報化が急速にすすみ、特にスマートフォンは中学生にとって極めて身近な存在であり、友人同士の連絡や情報交換に大きな力を発揮している。その反面、ネット社会は大人の目が届きにくいという影の側面を持っており、ネット犯罪やネットいじめ、SNSやゲームへの依存などの深刻な問題も起きている。だからこそ、毅然とした態度でネット社会に向き合うためにも、確かな情報モラルを築き上げる必要がある。

本資料では、スマートフォンでのやりとりで、いつのまにか友人関係に溝が生まれていく様子が描かれている。結衣の行動や気持ちをたどる中で、スマートフォンの使い方が原因で相手に与える影響や心のすれ違いについて考えたい。また香織の思いも考えることで、信頼を基盤として成り立つ人間関係は、人の節度や節制によって成り立っているものであると考えさせたい。なお、今回の全校道徳では①自分の考えをもつこと、②自分の意見を他者に伝えること、③他者の意見に耳を傾けること、の3点を大切に活動させ、この3点を通じて、他学年・他学級との意見交流を大きな目的としたいと考え、本主題を設定した。

（4）展開（60分展開）

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	1 本時のねらいをつかむ ○友人とのやりとりにおいてスマートフォンを使用するメリットとデメリットは何でしょう。 ○スマートフォンでのやりとりにおいて、友達とトラブルになった経験はありますか。	・経験がある。（赤色） ・経験がない。（青色）	・事前アンケートの結果をスライドで紹介する。 ・意思表示をするために事前に2色の画用紙を持たせる。 ・DVD視聴の前に、登場人物の確認を行い、特に結衣と香織の気持ちを考えながら視聴するよう指示する。

展開 (10)	2 DVDを視聴し、道徳的問題を見つける。 (視聴約10分)		・結衣がスマホの電源を切るところまで視聴する。
(5)	○ 結衣のスマートフォンでの友達とのやりとりの中で、問題だと思えることは何ですか。 (SNSの影響について考えさせる。)	・宿題の解き方をSNSで聞こうとした。 ・隠し撮りをして、勝手に友達に送った。 ・返信がないことにキレた。 ・隠し撮りを止めてと言われたのに止めなかった。	・結衣の行動の中での問題点を考えさせる。その際、それぞれのマナー違反になぜ問題があるかを考えさせる。 ・話し合い…3分、発表…2分 ・各学年、各クラス1班ずつ指名し、発表させる。
(8)	3 SNSの影響について考える。 ○なぜ、結衣は隠し撮りをしたり返信がないことを怒ったり、再度隠し撮りをのせたりしたのでしょうか。	【隠し撮り】1組 ・おもしろいから ・バカにしたかったから 【返信がないことに怒った】2組 ・宿題が終わらなかったから ・自分の思い通りにならなかったから 【再度隠し撮りを載せた】3組 ・返信がないことへのやり返し	・各クラスで話し合う場面を分け、なぜ相手が嫌がる行動をとってしまったのかについて話し合わせる。 ・ただ悪かったことだけで終わらせないよう声をかける。 ・話し合い…3分、発表…5分
(8)	4 本時のねらいに迫る。 ○ 香織は、マナーが守れない結衣のことをどんな人だと思ったのでしょうか。	・夜遅くに宿題を聞いてくるなど、自分の都合ばかりで相手の気持ちや状態を考えない人 ・友達の迷惑より、おもしろければいいという自己中心的な考え方をする人。 ・悪口を書いて拡散しようとしているので、いじわるな人。	・相手の気持ちを重んじ、マナーの必要性に気づかせる。 ・結衣と香織の友情をどう取り戻すかについては、あまり深入りせず、情報モラルに焦点を絞る。 ・話し合い…3分、発表…5分
(5)	5 DVDの後半を視聴し、今後の生活を考える。 (視聴約5分)		・続きから最後まで視聴する。
(8)	○ これから、結衣・香織はどんなことに気を付けていけばいいのでしょうか。 (中心発問)	・メッセージを受け取った人がどう思ったり感じたりするかをよく考えて言葉を選ぶ。 ・相手に直してほしいところがあるなら、スマートフォンでなく直接話し合う。	・信頼を基盤として成り立つ人間関係は、人の節度や節制によって成り立っていることを考えさせる。 ・話し合い…3分、発表…5分

(教室へ移動…3分)

終末 (8)	6 本時の学習を振り返る。 ○スマートフォンやインターネットの使い方について考えたことを書きましょう。	・書き込みをするときは、読む人の嫌いな気持ちになることは書かない。 ・メッセージを送る時間や内容にも気をつけ、相手の迷惑にならないようにする。	・価値の主體的自覚を促すのが目的である。
-----------	--	--	----------------------

(5) 他の教育活動との関連

長期休み前の全校集会や学年集会等で、スマートフォンの扱いについて指導する。その他の場面でも、人間関係の形成には節度や節制が不可欠であることを考えさせる指導を継続していく。

2 事後検討会

(1) 授業記録

T 今日、全学年が集まって、道徳の授業を行います。道徳の授業には答えはありません。そして、この時間で大切にしてほしいところが3つあります。(スライドを表示しながら)1つ目は「自分の考えを持つこと」、2つ目は「自分の意見を他者に伝えること」、そして3つ目は「他者の意見に耳を傾けること」。今日は特に3つ目の「他者の意見に耳を傾けること」を大切にしてほしいと思っています。せっかく1, 2, 3年生がそろっているので、先輩や後輩、そして同級生がどんなことを考えているのかを聴き合って、「そんな考えもあるんだなあ」と、考えを広げていってください。

T 今日、「情報モラル」について考えていきます。事前にアンケートから、東国分中のみなさんは、友人とのやりとりにスマートフォンを使用するメリットとデメリットをこんな風に答えていました。(アンケート結果を提示する。)トラブルになる、と答えていた人もいました。実際にトラブルになってしまった経験がある人は赤い紙を、トラブルに心当たりのない人は青い紙を上げてください。

S (赤い紙と青い紙を上げて意思表示をする。)

T 青い紙の人が多いようですが、赤い紙をあげている人もいますね。

T さて、これから見てもらうDVDでは、赤い紙をあげてくれた人たちのように友人とトラブルになってしまったという話を見てもらいます。登場人物を紹介します。(スライド提示)今回は、特に結衣さんと香織さんがどんな行動をとっていたのか、どんな気持ちだったのか、ということに注目しながら見ていきましょう。

(DVDの前半を視聴する。)

T さあ、結衣さんはどうやらトラブルにあってしまったようですね。結衣さんのスマートフォンでの友達とのやりとりの中で、ここが問題だったのではないかな、と思ったところは何ですか。グループの人となるべくたくさん思い出して話し合ってみてください。時間は3分です。

S 隠し撮りとか、悪口をグループラインにのせたこと。

S 香織さんが謝っているのに、いつまでも怒っていたこと。

S 相手のことを考えずに送った結衣さんもよくないけど、香織さんもはじめから「9時以降はメッセージが読めない」と言っておけばトラブルにならなかったと思うから、香織さんもよくなかった。

T なるほど。結衣さんだけでなく、香織さんにもよくない点があったという意見がでましたね。

S 隠し撮りを本人の許可なくアップしたり、嫌がっていたのに繰り返し写真をアップしたりしたこと。

T そうでしたね。いくつかよくないところがありましたね。それでは、ここでもう少し結衣さんの気持ちを考えてみましょう。さっき言ってくれた問題点を、3つに分けてそれぞれ考えてもらいます。1組は隠し撮りをアップした時はどんな気持ちだったのか、2組は返信がないことに怒ったのはどうしてか、3組は2回目の隠し撮りをアップしたのはどうしてか、についてそれぞれ話し合ってみましょう。

S (1組) 面白いから。

S (1組) 自分の撮った面白い写真を他の人に見てもらいたかったから。

S (2組) 相手の家庭のルール(9時以降はスマホ禁止)を知らずに、自分勝手に怒った。

S (2組) すぐに返信してほしい内容だったのに、返してくれなかったから。

S (3組) 調子に乗ってあげてしまった。

S (3組) 香織のことでいらいらしていたから、嫌がらせようとして再度隠し撮りをアップした。

T いろいろな意見がでましたね。それでは、今度は香織さんについて考えてみましょう。香織さんは、マナーの守れない結衣さんのことをどんな人だと思ったのでしょうか。

S 自分勝手に、自己中心的な人。

S 何を言っても聞いてくれない、いやな人。

S やめたとと言われても自分のやりたいって気持ちを我慢できない人。

S 相手のことを考えないし、自分が正しいと考えている人。

S 社会不適合者。

T 結衣さん、ずいぶん散々に言われてしまいましたね。では、そんな社会不適合とまで言われてしまった結衣さんは、これからどうしたらいいのでしょうか。また、先ほど、香織さんもよくない点があるという意見が出ていたので、香織さんもこれからどうしたらいいのかを考えてみましょう。

T 今話し合って出た「こうした方がいいのではないか。」という意見を頭に入れて、その後のお話を見ましょう。そのあとで、「やっぱりこうした方がいいな。」という意見を聞いていきたいと思います。

(DVDの後半を視聴する。)

T では、話し合って出た意見を発表しましょう。

S 相手の気持ちを考えてメッセージを送る。

S お互いを気遣い、相手に向けての言葉を一つ一つ考える。

S 言葉だけだと誤解を生むことがあるから、言葉にも気を付けるけど、大事なことは面と向かって言った方がいい。

S 結衣は人の気持ちを考えること、香織は必要なことをきちんと伝えること。二人とも先のことを考えて、相手のことを考えた方がいい。

T 他に意見が出たグループや、意見を言いたいグループはありますか。

S ルールを決めて使ったり、お互いのことを理解し合ったりする。

S 自分のことばかりでなく相手の気持ちを考えてスマートフォンを使う。そうすると社会に適応できる。

T 結衣さんは、社会に適応していけそうになってよかったですね。今日はたくさんの意見が聴き合えましたね。これから教室に帰り、授業を通して考えたことや感想を書いて、道徳の時間の振り返りをしましょう。

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・自分がいいと思ってやっていることでも相手は嫌がっていることがあると思うから、よく考えて友達と接していきたいと思った。
- ・スマホでのやりとりでは誤解を招くこともあるから、自分の事情だけでなく相手はその言葉をみてどう思うかを考えていきたい。
- ・自分も同じように友達とトラブルになったことがあったので、改めて気を付けたいと思った。言葉だと簡単に送ってしまうから、余計に相手はどう思うかをしっかり考えていきたい。
- ・学年やクラスが違くと、いろいろな意見が出るなと思った。他の意見を聞いて「なるほど」となったり、自分の意見が変わったりしたので、相手の意見をしっかり聞くことは大切だなと思った。
- ・自分の意見とは違う意見や考えなどが出て、「なるほど」と思った。1年、2年、3年で、だいたいの意見は同じだったけど、見る角度や表現の仕方が違って面白かった。たくさんの考えや意見が聞けて良かった。

(参観者の感想)

- ・グループの人数も3～4人に分けられていて、互いの意見を話し合うのに丁度よかったと思います。各クラス1班からの指名だったので、後半の班は当てられない安心感からかよりするどい意見が出たり、活発な話し合いができていたので、コの字隊形にして発表者の顔が見えるような配慮やランダムに指名するなど、より多くの班に発言の機会があってもよかったと思いました。
- ・全校道徳は他でもあまり見たことがありませんでしたが、各学年の意見を共有するのは、同学年と違う視点に触れることにもなり、とてもいい取り組みだと感じました。「SNS などとの関わり方」は、学校全体で共通理解を図りたい内容だと思うので、全体で考え、話し合い、共有する貴重な機会になり、今後の指導へも活かせると思いました。
- ・映像教材がリアルで、中学生も真剣に見入っていました。その後の話し合いも、自分のこととして考えられたのではないかと思います。
- ・小グループでの話し合いがとても活発でした。開かれた話し合いをするための目標を最初に伝えることで、グループのリーダーを中心に、相手を否定することなく、認め合いながら意見を出し合っていました。発表のときに、すぐに聞く姿勢へ切り替える姿も素晴らしかったです。
- ・赤と青のカードを使って質問に答えるのは、結果が視覚的にすぐわかるのでとても良いと思います。ただ、一回しか使わなかったのがもったいないとも感じました。「友達とのメールのやり取りでトラブルになったことはあるか」という質問は、2～3年生にとっては答えづらく、本心からの回答なのか気になりました。事前アンケートで結果が出ているのならば、スライドで結果を表示してもよかったかもしれないと思いました。手段としてはとても有効だと思うので、自分のクラスでも実践してみたいです。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 円滑な活動のための指導

- ・全校道徳では、①自分の考えをもつこと、②自分の意見を他者に伝えること、③他者の意見に耳を傾けること、を大切にし、この3点を通じて他学年・他学級との意見交流を大きな目的とした。授業の導入において全体で共有するとともに、事前にグループリーダーを集め、指導を行った。
- ・事前指導では各学年の教員にも参加してもらい、職員間の連携を図った。